

# 多彩なジャンル一堂に

## 市美術館30周年記念展

### 若手がトークセッション

## 八戸

八戸市美術館開館30周年記念展が17日、同館で始まった。市美術報奨受賞者や同市在住の若手作家ら計40人の作品79点を展示。同日は若手作家のトークセッションも行われ、市民らが耳を傾けた。

市美術館は市博物館の分館として1986年に開館した。市美術報奨は、市が優れた創作活動を行い活躍が期待される個人をたたえる制度で、90年度から99年度まで実施していた。今回は受賞者のうち32人

の絵画や陶芸、書、写真など幅広い分野の作品を展示。美術館に対するそれぞれの思いを記したパネルも添えられており、長年にわたって活動にいそしんでいた作家たちの心の内を感じることができる。一方、若手作家の絵画や工芸品は、いずれも斬新で独特の感性があふれるものばかりだ。



若手作家3人が芸術と教育の関係などについて語り合ったトークセッション

同展は25日まで。トークセッションは18日と24日も行われる。(山内はるみ)

トークセッションには、八戸工業大学第二高校教諭で羊毛を使った工芸作品などを手掛ける松本秀樹さん(41)、八戸学院短期大学講師で絵画が専門の佐貫巧さん(34)、同市職員で鍍金工芸が専門の齊藤未来さん(27)が登場。芸術と教育の関係や美術館のあり方などについて語り合った。齊藤さんは「有名な人の作品だからすごいと教えるのではなく、小さい頃からいろんなものを見て、いろんなことを感じるのが大事」と述べた。